

人文社会科学研究科言語文化専攻における教員養成に対する理念等

教員養成に対する理念・構想・養成する教員像

【言語文化専攻】

(1) 学科の設置理念

複言語・複文化主義の見地に立ち、特定の言語・地域・時代に捉われることなく、広く言語文化の多様性と普遍性に対する理解を深め、高度で深遠な専門知識と広範な教養を持つ人材を養成する。特に多様な文化的価値観が混在する現代のグローバルな社会状況において、複数の言語運用能力とその背景となる多様な文化的・歴史的知見に基づき、人間社会の根幹を形成する種々の言語文化活動を対象として、今日の社会の諸問題について深く考察し研究を行うことができる自立的な言語・文化・歴史研究の研究者、初等中等及び高等教育機関における語学の教育者を養成する。

学生に、以下に掲げる能力等を修得させることを教育研究上の目的とする。

1. 学際的見地及び科学的・学問的な立場から、言語文化の諸領域を横断的に俯瞰できる知識と技能（広い視野に立った豊かな学識）
2. 世界の多様な言語文化の特色と普遍性を深く理解し、体系的な知識と幅広い教養に基づき、独創的な研究を行う能力（専攻分野における研究能力）
3. 英語及びその他の外国語の高度な運用能力(複言語能力)を備え、それを専門分野の研究・職業に役立てる実践的能力（高度な専門性が求められる職業を担うための卓越した能力）

(2) 教員養成に対する理念・構想

言語文化専攻は、複言語・複文化主義の見地に立ち、特定の言語や地域・時代に捉われることなく、広く言語文化の多様性と普遍性に対する理解を深め、高度で深遠な専門知識と広範な教養を持つ材を養成する。特に多様な文化的価値観が混在する現代のグローバルな社会状況において、複数の言語運用能力と、その背景となる多様な文化的・歴史的知見に基づき、人間社会の根幹を形成する種々の言語文化活動を対象として、今日の社会の諸問題について深く考察し研究を行うことができる自律的な言語・文化・歴史研究の研究者、初等中等および高等教育機関における語学の教育者を養成する。とりわけ言語文化学専攻においては、単に外国語の運用能力を涵養するだけでなく、グローバル化が進む世界にあって「英語圏」及び「世界の諸言語圏」の現状を俯瞰しながら、英語や英語圏文化の本質と現代的役割を深く理解し、それを教育現場に還元できる人材の育成を目的とする。

そのために、自律的に自己啓発を継続し、多元的なものの見方を養いながら、国際社会で自立して生きていく姿勢のある教員の養成を目標とする。研究指導においても、高度の知識、技術の習得を求めつつ、自主性を重んじながら、究めんとする学問に最後まで主体的に向き合わせることに留意する。

(3) 課程の設置趣旨

言語文化専攻は国際学部言語文化学科の上位機関として位置付けられているためおり、主として「言語学」、「複言語・複文化学」「英語学」及び「英語圏文学・文化学」を学修した学生が入学することを想定している。本専攻はこれらの学生に対し、より幅広く、より深く、体系的に、各専門分野について学修できる課程を実現している。こうした体制下で教職課程を開設することにより、グローバル化が加速する現代の要請に即応できる高い知識と素養、そして学習指導能力を有する人材を育成することになると考える。また、本専攻は現代的視点に立った国際人の育成を目標とし、時代の変化に柔軟に対応できる、真に国際性を持った教員を輩出することによって、教育界に対し、これまでにない有為な人材を提供できるものとする。

《中学校教諭専修免許状：英語の設置趣旨》

本専攻においては、英語や英語圏文化に関する高度の専門知識を習得させるだけでなく、複文化・副言語主義の理念に従い、あらゆる言語や文化を偏向なく受容する姿勢を身に付けさせる。これらは、中学校学習指導要領外国語科の目標（「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」）と合致するものである。さらに、ネイティブ・スピーカーによる授業を含め、実践的英語運用力を高めることに重点をおいているが、これは、初歩的な英語を用いてコミュニケーションさせることを重視している中学校学習指導要領の英語における目標（第9節第2）を達成するにあたり、重要な教師としての能力である。前述等に鑑み、本専攻の教育課程の延長上に中学校教諭が見据えられるのは明白であり、とりわけ学習指導要領が目標とする教育の達成に本専攻の卒業生が寄与できるものとする。

《高等学校教諭専修免許状：英語の設置趣旨》

高等学校学習指導要領は、外国語科の目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」としている。本専攻の教育課程においては英語や英語圏文化、延いては世界の諸言語文化に対する体系的理解を促進する科目を多数用意している。これらは教壇における説明力に繋がるものであり、生徒の「的確な理解」や「適切に伝える」能力の育成に大いに寄与するものとする。また、中学校に引き続き掲げられた「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める」態度の育成についても、本専攻の各専門分野を通じた英語全般に対する学問的理解を発揮することで、高校生に相応しい理解を促進する授業を展開できるものとする。前述等に鑑み、本専攻の卒業生が高校教育界に貢献でき、本専攻に高等学校教諭専修免許状の取得課程を設置することは、本専攻の社会に対する貢献の重要な柱であるとする。